

平成 25 年 11 月の解説（府県天気予報）

【11 月の天候状況】

上旬は、日本付近を低気圧と高気圧が短い周期で通過したため、全国的に変わりやすい天気となりました。7 日から 8 日にかけては、低気圧が急速に発達しながら日本海から北海道付近を通過したため、北日本日本海側を中心に大雨や暴風となりました。また、10 日にも日本海を発達しながら低気圧が通過しました。これらの影響で、日本付近には南からの暖かく湿った空気が流れ込んだため、全国的に気温が高く、日本海側で降水量が多くなりました。

中旬は、概ね冬型の気圧配置となり、北日本から西日本にかけての日本海側では曇りや雨または雪の日が多くなりました。特に旬の前半は、冬型の気圧配置が強まり日本付近に強い寒気が流れ込んだため、北・東日本日本海側の広い範囲で雪となり、北日本日本海側では降雪量が多くなりました。一方、北日本から西日本にかけての太平洋側では、晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美では北よりの湿った気流の影響で曇りの日が多くなりました。旬平均気温は、東日本ではかなり低くなりました。旬降水量は、東日本日本海側ではかなり多くなりました。旬間日照時間は、北日本太平洋側ではかなり多くなりました。

下旬は、冬型の気圧配置の日が多かったため、日本海側で曇りや雨または雪の日が多く、太平洋側では晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美では高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。25 日から 26 日にかけては、発達した低気圧が日本海を北東に進み、低気圧から南西諸島にのびる寒冷前線が日本付近を通過したため、全国的に短時間に激しい雨が降り突風が吹くなど、大荒れの天気となりました。旬平均気温は、沖縄・奄美ではかなり低くなりました。旬降水量は、北・東日本日本海側ではかなり多くなりました。旬間日照時間は、東日本太平洋側と沖縄・奄美ではかなり多くなりました。

月平均気温は、北日本で高い一方、東・西日本、沖縄・奄美では低くなりました。月降水量は、北・東日本日本海側ではかなり多く、西日本日本海側で多くなり、留萌（北海道）と新潟では 11 月の月降水量の多い方からの 1 位を更新しました。一方、東日本太平洋側では少なくなりました。月間日照時間は、北・東・西日本太平洋側で多くなる一方、東日本日本海側では少なくなりました。

【11 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 2 ポイント高い 86%で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 83%でした。各地方の適中率では、明日予報は概ね例年値程度となり、北陸で例年値より 6 ポイント高くなりました。明後日予報は、東海・北陸・沖縄地方で例年値より 5~6 ポイント高い一方、九州南部地方では 5 ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 1.3 でした。各地方の予報誤差では、概ね例年値より小さく、西日本の各地方で 0.4~0.5 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.4 でした。各地方の予報誤差では、概ね例年値より小さく、中国地方では 0.4 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1 月の天気予報の利用にあたって】

1 月は冬型の気圧配置となり、日本海側の地方で雪や雨、太平洋側の地方では晴れとなることが多くなります。一方、日本の南岸を低気圧が通過する場合などには太平洋側の地方でも雨が降り、雪となることもあります。雪の降ることが少ない地方では、数センチの積雪でも交通機関の運行などに大きく影響します。また、例年積雪の多い地方でも、大雪が続く場合には一層の対策が必要となります。

降雪の対策に、天気予報や、最新の気象情報、注意報、警報を活用してください。